

# 愛知県板金工業組合 第 36 回 通常 総代会



組合員 1,466 名  
事務所 名古屋市昭和区北山町 3-8-6  
電話 052-732-1226

第三十六回通常総代会が、五月十五日、名古屋国際ホテルで開催された。

昭和支部の鷲見氏の司会により定刻通り午後一時に開始、知多支部の沼澤氏の開会の辞の後、物故者への黙祷が行われた。

村上理事長の挨拶の中で「今年度は、ソーラー発電、リフォームの講習、保証制度の拡充を計り、施行については、常に危険が伴うので、安全作業に徹してほしい」との事であった。

続いて議事に入る。議長選出にあたり、司会の鷲見氏に一任。知多支部の蟹江氏が、その任にあたる。一〇四号議案担当の、齋藤、長谷川、高柳、各副理事長、事務局より、谷沢事務局長の説明があり、出席者の賛成多数により可決成立となった。五号議案の役員改選では、立候補者が出ない為、議長一任となり、議長の提案を、現理事諸氏が、別室にて協議の結果、留任となった。次に、永く県板組合に役員として奉仕された方々に、理事長より感謝状の贈呈があった。最後に来賓の方の祝辞をいただき閉会となった。

十分の休憩の後、「建築板金の安全管理」の講演があった。午後四時二十分、総代会、講演会が終了となった。  
会場を移して、懇親会となった。来賓の愛知県問屋会・加藤会長の挨拶の中で、「今や全社の経営は、消耗戦であり、体力

の有る者しか生き残れない。しかし、もし生き残ったとしても、将来に渡って業績のアップを計れる保証は、何処にもなく、また一段と厳しい社会になる事も予想される。今後は、板金業者の方々とその共存共栄をお願いします」との言葉、一瞬会場は静かになったが、日本鉄板(株)小林支店長の乾杯の首頭で賑やかな懇親会となり、旧交を暖める者、いつものメンバーとの談笑など、和気藹藹の内に閉会となった。

知立 齋藤

## ＊ ＊ 講演 ＊ ＊

建設業災害防止協会、愛知県支部委員嘱託の坂長助氏を迎えて、「建築板金の安全管理」についての講演があった。我々の職場を取り巻く環境は、大変厳しいものがあり、安全の為に、最大限の努力をしているか、と言えば、そんな事はないと言わざるを得ない。しかし、安全作業こそ最優先されなければならない。自分の命は、自分で守る。〇〇であつたら……、〇〇であれば云々、これらはすべて言訳になってしまふ。ではその為には、何をすれば良いのか。坂氏は、まず、安

全意識の向上、安全な工場の使用、安全足場の確保、保護具の着用は当然の事である。その他にも、現場に危険な箇所はないか、又、作業が終了した時点で、ヒヤットとした、ハットした事等の報告。災害はあってはならない事であるが、ケガをする因は、何処にも何時も、ある。その様な事にならない為に「安全作業に徹する」これしかないのでは。だが、高柳理事長の会場アンケートでも、保護具の着用状況は、約半数であつた。その後の質疑で、予算、工期の関係で、足場が無くても作業しなければならぬが、又、雨が降っていて、危険を

承知で作業しなければならない時はどの様にすれば良いのか、この様な事に思い当る御同輩も多いのではなからうか。しかし、「自分の命は、自分で守るとの前提の上に、危険作業は、拒否するぐらいの姿勢でいてほしい」との答えであつた。発注側と受注する側の立場もあり、教科書通りに行かないのが現状では。今までは良かったから、何事も起こらなかつたから、等は止めて、安全第一で。  
坂講師は、  
一、今日一日を一所懸命生きる。  
一、その積み重ねが一生である。

一、行動しない者に、やりがいがある筈がない。  
この事を、自分のみならず、職人さん達にも徹底してほしいと言われた。  
言われるまでもなく、皆様御承知であると思ひます。当たり前の事を、当たり前にする。行政改革ならず、作業改革を、と思つた次第でした。

知立 齋藤



▶ あいさつする村上理事長



▶ 講演する坂長助講師



▶ 懇親会風景

平成12年度決算書 自平成12年4月1日 至平成13年3月31日

収入の部 (単位:円)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 摘要. Rows include 賦課金収入, 事業収入, 雑収入, 利息, and a total row.

平成12年度 [自平成12年4月1日 至平成13年3月31日] 事業報告書

I 概況

我が国の経済は、長引く不況の中、世相は金融・雇用・老後の三大不安を抱え、経済の混迷と共に12年度も非常に厳しい状況で推移しました。

国は新しく省庁の統合をし、経済改革・行政改革を声高々に叫んでいますが、公共工事については、世上報道機関に置いて喧しく論じられておりますものの、「百害有って一利無し」の垂れ流しの公共工事については打ち切り社会資本整備環境事態の改善については、善し悪しを見極めた上で施策を充実出来るようにして欲しいと願っています。

先ず差し当たって我々業者の重大関心事は、長期に亘る採算割れの低価格工事による業界の体質衰退の改善を図り、適正価格での受注を推進し経営の安定化と、建設関連専門業者の景気の高揚を図ることが先決です。

この様な緊迫した現況下ではありましたが、当組合は創立35周年を迎え、多数の皆様方のご参加を賜り、関係官庁各位のご祝辞並びに各種功労者の表彰を行うなど、厳粛な内にも充実した記念式典を挙行いたしました。

また、横浜で開催された全板大会に、当組合では多数の組合員各位のご参加を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

皆様すでにご承知の通り、当県板の8つの委員会に加え、11年度に実施し好評を博した全板連・(社)日板協の新開拓事業の住宅用太陽光発電事業委員会を設け、昨年度に引き続き、住宅用太陽光発電の講習会の実施と併せ、リニューアル工事の促進にも力を入れて参りました。

恒例の技能検定実技受験の講習会及び試験を始め、技能プラザの出展に関しても、関係者各位の御尽力により、無事終了し立派な成果を上げられましたこと厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、去る9月10・11日の東海豪雨災害に付きましては、全板連・中板協より多大なるお見舞金を頂戴し、また当組合の各支部より多くの方々の御厚志を頂き、組合員の被災者の方々に大変感謝されましたことをご報告させていただきます。

以上、この一年間の事業報告と、皆様のご協力に対し心から謝意を表しますと共に、今後とも組合事業の目的遂行のため、ご理解とご協力を賜りますようお願いし、ご報告を申し上げます。



支出の部 (単位:円)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 摘要. Rows include 事業支出, 関係事業費, 雑費, and a total row.

平成 1 3 年度 予算書

自 平成 1 3 年 4 月 1 日  
至 平成 1 4 年 3 月 3 1 日

収 入 の 部 (単位:円)

Table with 3 columns: 科 目, 予 算 額, 摘 要. Rows include 1. 賦課金収入, 2. 事業収入, 3. 事業外収入, and a total row.

支 出 の 部 (単位:円)

Table with 3 columns: 科 目, 予 算 額, 摘 要. Rows include 1. 事業支出, 2. 間接事業費, and a total row.

貸 借 対 照 表

平成 1 3 年 3 月 3 1 日 現在

(単位:円)

Balance Sheet table with 4 columns: 科 目, 金 額, 科 目, 金 額. Divided into 流動資産, 固定資産, 流動負債, 固定負債, 資本の部.

財 産 目 録

平成 1 3 年 3 月 3 1 日 現在

(単位:円)

Asset Inventory table with 3 columns: 科 目, 資 産 の 部 摘 要, 金 額. Lists assets like 現金, 普通預金, 定期預金, etc.

全国板金業国民健康保険組合愛知県支部

平成12年度収支決算書

(自平成12年4月1日 至平成13年3月31日)

収 入 の 部		
科 目	金 額	備 考
〔Ⅰ 特別会計〕		
1 国民健康保険料	222,075,075	
2 保険給付費	22,430,132	
①医療費	333,243	
②高額療養費	8,362,889	
③高額医療費貸付金	0	
④出産育児一時金	9,450,000	
⑤葬祭費	1,380,000	
⑥出産手当金	204,000	
⑦傷病手当金	2,700,000	
3 不当利得等返還金	0	
4 繰越金		
小 計	244,505,207	
〔Ⅱ 一般会計〕		
1 県支部交付金	3,302,400	
①県支部平等割	528,000	
②加入者割	2,251,200	
③保険料納入奨励交付金	0	
④加入促進奨励交付金	0	
⑤オンライン関係交付金	500,000	
⑥その他の交付金	17,200	切手代
2 県支部事務費	3,076,900	
3 保険事業費	1,653,274	
①スポーツ大会奨励交付金	200,000	
②健康講演会等助成金	0	
③健康診断助成金	1,453,274	
④健康事業参加費		
4 参加料収入		
5 預金利子	4,277	
6 借入金		
7 繰入金		
8 繰越金	2,413,469	
9 諸収入		
小 計	10,450,320	
合 計	254,955,527	

支 出 の 部		
科 目	金 額	備 考
〔Ⅰ 特別会計〕		
1 本部納付保険料	220,355,800	
2 保険給付費	22,430,132	
①医療費	333,243	
②高額療養費	8,362,889	
③高額医療費貸付金	0	
④出産育児一時金	9,450,000	
⑤葬祭費	1,380,000	
⑥出産手当金	204,000	
⑦傷病手当金	2,700,000	
3 不当利得等返還金	0	
4 未払金	1,719,275	
小 計	244,505,207	
〔Ⅱ 一般会計〕		
1 一般管理費	1,463,029	
①給料 手当等		
②賃金		
③会議費		
④旅費交通費		
⑤交際費		
⑥需要費		
⑦役員費	475,441	振込手数料 切手代
⑧使用料及び賃借料		
⑨備品購入費	987,588	パソコン一式
2 保険事業費	1,653,274	
①スポーツ大会事業費	200,000	
②健康講演会等事業費	0	
③健康診断事業費	1,453,274	
3 支部助成費	225,200	
4 借入返還金		
5 工業組合繰入金	3,600,000	
6 雑支出金		
7 予備費		
小 計	6,941,503	
合 計	251,446,710	

貸 借 対 照 表

(平成13年3月31日)

全国板金業国民健康保険組合

愛知県支部

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1 流動資産		1 流動負債	
現 金	78,100	預り保険料	1,719,275
預 金	5,149,992	預 り 金	0
立 替 金	0		
		2 剰 余 金	
		繰越剰余金	2,413,469
		当期剰余金	1,095,348
合 計	5,228,092	合 計	5,228,092

平成13年度

# 全国安全週間実施要綱

本週間 7月1日～7月7日  
準備期間 6月1日～6月30日

## 世紀をこえて「安全第一」めざそう職場の危険ゼロ

☆スローガン☆

「交通事故（道路）」一〇二人、「挟まれ・巻き込まれ」は七十人となっている。  
ちなみに愛知県内では死者は二十七人となっている。

このような状況の中、労働災害、特に死亡災害を更に減少させるため、労使が一体となり、「安全第一」の理念のもと、一致協力して最善の労働災害防止の徹底を図るとともに、新しい世紀にふさわしい安全活動と、安全教育がより一層強く求められ、一方では事業主にも責任が課せられ、事情に問われる可能性も充分にありや、放置次第では検察局へ書類送検ともなりかねない。万が一、事故発生の内容によっては、

次の四つの責任が問われることもあり、要注意とする。  
①行政責任……「使用停止処分」及び「指名停止等の措置」  
②刑事責任……業務過失傷害・致死（刑法二二二条）あるいは労働安全衛生法違反、③民事責任……被災労働者あるいは遺族からの損害賠償請求、  
④社会的責任……世論、住民感情 といった問題。

このように、一つの労働災害が発生すると、四つの側面から問題視され、建設業の経営者や第一線監督者は、これらの責任を追及される立場におかれているということを銘記して置くことが肝要といえる。

県板組合員の皆様に置かれては、最近には特に奇抜な建物が多く、危険度が軽視される中、安易な感覚で安全作業や行動により災害も多発してお

り、減少する傾向もなく管轄監督署の監督官より、強行なご指導と要請により、事の重要性を重んじ、早急な対策として、県板事務局では去る五月十五日の総代会の終了後において、安全講話を催した。講師には、法定特別教育センターの坂長助氏により「建築板金の安全管理について」と題して貴重なお話を頂いた。これらの講話を十分に生かし、今回の安全週間を通じて、組合員の末端にまで周知されることを切望する。これらの機

会を無にする事なく安全講習を希望されるブロックがあれば県板事務局へお問合わせください。  
一方大手セネコンならびに工務店などで行う、安全大会に積極的に参加し新たな安全技法を学ぶ事も一つの方策ともいえよう。年一回の有意義な安全週間を生かし、災害を未然に防ぐ方策を完熟させ、多くの組合員から事故を未然に防ぐ施策を皆さんと共に考え、明るい環境作りに努めたいと願うものです。 沼澤

## 広報委員の六年間

あっと言う間の六年でした。つたない記事に少々カゲキな記事にワンポイントのアドバイスして下さった斎藤委員長、古株？の沼澤さん、佐藤さん、鷺見さん、高橋さん、後から入られた委員の皆さんといふ本当に良い方ばかり、楽しい編集会議でした。心から御礼申し上げます。

今、一番危惧しているのは二〇〇五年には建設業の数は五割を切る。われわれの業界もほぼ同じ数字と考えてよい。生き残る為、早い内に方向付けるかオンリーワンになることだろう。「建設動乱」と言う大波が押し寄せて来るまで後二、三年、今までの体質では乗り切れない。情報集めに早く行動を起こされることをお勧めしたい。

印象に残る記事は「器確法」とは言わないが、大手有利と建設族の出先機関が増えただけ。天下り先を大事にしたいのだろう。日本の九〇数%は中小企業で占めてるのに。

屋根までとんで  
こわれてきた  
しゃぼん玉 消えた  
飛ばずに消えた  
うまれてすぐに  
こわれて消えた

生後二ヶ月で次男は無くなりました。私の腕の中で生きていたのは夢だったかのよう。ふと、ラジオから流れる「しゃぼん玉」の歌を聴いて、たまらなくなりスイッチを切りました。  
ある日「しゃぼん玉」は野口雨情が嬰兒を亡くした時に作った詩だと知りました。

だいたいだから、祈りのなかで思いもよらず、天上で大きく成長し働いている息子の姿が魂に映されました。それからは、地上を生きる私と、天上の息子への応援歌として、この歌をさわやかな心でうたってます。  
『生命の光から』と題し五月十一日、私のメールに友人から届いた。メールを見ながら、なぜか涙が止まらない、書きながら涙が止まらない。広報委員として、こういう感動する記事をもっと伝えたい気が力が不足で申し訳ない気が



最近、感動してまずか？私の感動より  
しゃぼん玉 とんだ  
屋根までとんだ

6頁へつづく

5頁のつづき

する。四月から支部長をお受けして広報委員を降ろるが機会があれば記事を送りたい。

社会状況もあるのだろうか最近では「良い」「悪い」より「得か損」で動いているのが気になる。損得は長続きしない。「しゃばんだま」のような感動するものをお伝え出来ればと思う。愛板八百数社、この三、四年の踏ん張りとお繁栄を心から願いたい。

皆様に今、自分自身に言い聞かせている「言葉」にて取りあえず広報委員として最後の記事にしたい。六年間ありがとうございました。五月十日 記 東三 吉田

聞かせている「言葉」にて取りあえず広報委員として最後の記事にしたい。六年間ありがとうございました。五月十日 記 東三 吉田

東三 吉田

小人は縁に会って縁に気がかす 中人は縁に会って縁を生かさず

大人は袖触れ合う縁をも生かさず

柳生家家訓より

私の道楽

三年前より会社の駐車場の一部の土地(縦2M×横6M)に畑け用の土を入れ、家庭菜園ならぬ自社菜園を始めました。

小さな土地に鶏ふん、牛ふん、油かす等を入れ畑を耕し、うねを作り種や苗を植えつけ、天候を気にしながら水まきをする。種まき後の強い雨ふりは種が流れてしまいガッカリします。

お百姓さんの大変さも身を持って経験する事ができ、子育てに通じる思いを強くいただいています。種が芽を出し、葉が大きく育ち立派な野菜ができた時の喜びは何にもたと

えようが有りません。又一昨年は雨水を溜めるタンクを(1.8M×6M)厚み0.8mmで作

り、水をポンプで汲み上げ、菜園の水まきに使用していません。

食卓をにぎわし従業員に自慢しながらおすそ分けする楽しみをかみしめ、新たな野菜作りにチャレンジしようと思

気込んでいます。現在畑にはスナックえんどう、小松菜、法蓮草、なす、きゅうり、トマト、ピーマン、じゃがいもにんにく、南瓜、ネギが顔をそろえています。今朝じゃがいもの白い花が咲きだしました。孫達にも生

きた勉強の教材となっていました。私自身も野菜作りの楽しさをやっと感じる様になりました。五月十日 記 豊田 西保 章

5月各支部の動き

- 千種支部 20日 三役会
東北支部 12日 支部会
西支部 25日 支部会
昭和支部 8日 月例会
熱田南支部 17日 定例会
中村支部 15日 定例会
津島支部 5日 定例会
西春支部 19日 支部例会
西三板金連合会 23日 三役会議
・秋旅行の件
・高速道路別納カードシステム
・名古屋板金連合会
・新入会員の紹介
・親睦旅行打合せ

・全板国保ボーリング大会の件
碧南支部 30日 青年部定例会
・名簿作製
・新年度班長・行事会費について

- 豊田支部 12日 第2回役員班長会
27日 第29回横山興業板金まつり参加
安城支部 10日 役員会
29日 青年部定例会
西尾支部 11日 役員会
東三支部 2日 定例会
講演会「今後の建設業界の動向」
青年部定例会
東板会ゴルフコンペ
東海・C・C
三役・運営会・青年部懇親会
三役会

編集後記

この度の機構改革により、長らく務めて来ました広報委員長の職責を五月三十一日をもって交替いたします。従いまして委員長指定席であった「編集後記」は今回が最後となりました。思い返せば昭和五十四年五月・専門委員会発足と同時に広報委員に指名されて以後、現在に至るまで広報一筋で来ました。五十八年一月、広報委員長を拝命してから十七年八月が過ぎようとしていきます。その間「編集後記」を書き始めたのが五十七年九月発行の一五五号から今回発行の三六一号まで二〇六回を数える事になりました。

一年間発行十一回、毎月月末には必ずやって来る指定席の役目は、時には楽しみでもあり時には苦痛に感じたことも多々ありました。たかが一段に四八〇字を打ち込むだけなのに、その時の題材が絞り切れず何日も考え込む時もあり、ばタイミングよい閃きで三〇分余りで快調に仕上がったときは余裕のひとつきでした。ともすれば組合機関紙の内容は硬くなりがちですので、本来の編集後記の形を外して肩の凝らない空気の要素で気楽に読んで貰えるコラム欄



なるよう心掛けて来ました。かつて、愛板一号から八三号まで一人で編集された栗田大先輩が囲み記事で健筆を奮った「賦録」や「板金随想」を連載された小原氏の共に見事な文章力には遠く足元にも及ばない記事ばかりでしたが、季節のこと、旅や温泉の話、時事の問題点、組合事業活動など、長い間続けられたのも後押しして頂いた皆さんのお陰と感謝の気持ちで一杯です。「愛板は最後から読み始める」とか、毎月の後記を楽しみにしているよ」との励ましは、力水を得たように嬉しいものでした。何事もまたどんなに優れた事であっても、自分のした事を自慢話にするのではなく、他の人から評価し認めて貰えたことに意義があると思っております。編集後記末尾の(S)のサインは今回が最終回となりますが広報担当三役で残りますので機会があれば息抜きの記事でも書きたいと考えています。来月からは新体制による新しいカラーの愛板にご期待下さい。最後になりましたが長い間のお引立てに重ねて感謝・感謝です。有り難う御座いました。五月二十八日(月) 晴 三六一号 編集会議 委員 十五名 出席 午後五時終了 (S) 広報委員長 斉藤充昭